



様式第2号

平成30年11月15日

坂戸市議会議長 様

会派名 立憲民主党

代表者名 弓削 勇人



### 実施報告書

下記のとおり、調査研究等を実施したので報告します。

### 記

1 期 日 平成30年10月17日(水) 午後1時30分～3時30分

2 参加者氏名

弓削勇人			

3 調査研究等の行き先及び内容

行き先	内 容
坂戸市役所 全員協議会室	坂戸市議会議員研修会 「超高齢化・高度情報化社会における読書や読み書き 困難者への情報支援について」

4 概要

別添のとおり

# 坂戸市議会議員研修会報告書

- 1 日 時 平成30年10月17日(水) 午後1時30分～3時30分
- 2 場 所 坂戸市役所 全員協議会室
- 3 内 容 超高齢化・高度情報化社会における読書や読み書き困難者への情報支援について

## 4 講義概要

NPO 法人「大活字文化普及協会」の田中章治氏及び市橋正光氏から、視覚障害者の方々が読み書き情報支援に関し、どのような問題を感じ改善を望んでいるのか、法律的な観点及び具体的な事例を用いて説明して頂いた。

## 5 感想・所見

視覚障害者の方にとり、読み書きができないことによる日常生活上の困難は、想像以上のものであった。例えば、私たちの日々において、様々な書類の確認や記入は稀なことではない。手紙一つをとっても、内容が分からなければ、それは無いものと同じである。アイマスクをし、視覚障害者の方が、手紙の内容をどのような方法で理解しているのか実演して頂いたが、何も見えない状況で手紙の内容を理解する事の困難さを改めて認識した。代読者が手紙の形状・色から、一つ一つの記載内容を丁寧に音読しなければ、目が見えない状態では何も分からない。しかし、常に代読者がいるわけでもない。また信頼に足る代読者でなければ、どのような被害に合うかも分からない。かように手紙という日常的な情報伝達課題の解決も簡単ではない。

病院での書類へのサインは尚のことである。医療現場で手術の同意等のサインができなければ、生死に係わる問題に繋がる。視覚障害者の方が、どれほど命の危険に晒されているのか、具体的な説明から理解を深めることができた。速やかな改善が必要であると考える。

また図書館における読み書き情報支援サービスの現状も説明して頂いた。どんな障害を抱えている方も読みたい本を読むという当たり前の権利を守ることは必要である。しかし一冊の本を音読することには多くの人的・時間的・財政的な制約がある。そのような点から考えると、やはり点字図書が増加が課題解決には必要な取り組みではある。しかし書籍は毎月膨大な数が出版される。出版不況が叫ばれる中、出版社も点字図書の出版を増やす事は簡単ではないだろう。やはり行政や、ボランティア団体等による何らかの支援拡充が必要であると考える。

先進国とは、社会的弱者の人権を担保する度量を持つ国の事であると思ふ。障害者の方が抱える問題を完全に解決することは、現在は困難かもしれない。しかし、AIやIoT等の技術革新が進む中、技術革新によって課題解決の可能性は高まっているのではないかと。国及び自治体は、人的資源では限界のある課題を、情報科学技術によって解決すべく取り組むべきであると研修会を通じ考えた。今後の政策提言に活かしていく所存である。